

第35回彦根市男女共同参画フォーラムは、新型コロナウイルス感染防止に伴い、中止とさせていただきます。

第35回

彦根市男女共同参画フォーラム

令和2年3月8日(日)

13時20分から(開場は13:00から)

会場:ひこね市文化プラザ メッセホール

講演

「がんばりすぎない」人生設計
～男女ともに素敵に生きていくためには～



はねばやし ゆず
講師:羽林 由鶴さん
(103kgの恋愛カウンセラー)

【オープニング】
彦根JOYジュニアオーケストラ

当日プログラム

13時00分:開場
13時20分:開会式
13時30分:オープニング
14時00分:講演
15時30分:閉会予定

1988年日本大学芸術学部を卒業。
財団法人教育研究所出版部編集部門で17年間勤務された後、心理カウンセラーとして独立。
現在は、結婚相談、学習支援、人材育成等のカウンセリング業務に携わり、その他、執筆・講演活動、テレビ・ラジオへの出演など多方面に活躍中。

問合せ先 彦根市男女共同参画センター「ウィズ」 TEL/FAX 0749-24-3529 E-mail with.hikone@oboe.ocn.ne.jp

総合相談

水・木・金 13:00~16:00
*面接相談
*電話相談

ウィズ相談室



専門相談(こころの悩み・法律相談)

毎月第1月曜日:心の悩み相談
毎月第3月曜日:法律相談
※総合相談での予約が必要です。

専用ダイヤル 0749-21-5757 ☆相談は無料です。プライバシーは守られます。☆

彦根市男女共同参画社会づくり広報誌

かけはし



～ありのままの自分を生きる～



- P2.3 男らしさ、女らしさって何だろう
- P4.5 見えないものにこそ、気づいていこう
- P6.7 「mamax妻×私」
自分史上最高の今を生きる!

【編集・発行】

彦根市男女共同参画センター「ウィズ」
〒522-0041 彦根市平田町670
TEL/FAX 0749-24-3529
E-mail with.hikone@oboe.ocn.ne.jp

【編集委員】 村上 侑史、小林 由妃、原田 絢子
【表紙イラスト】 「はーとふるメッセージ2018」

小学生の部 特選
2020年3月1日発行

まずは考えてみて・・・
男らしさ、女らしさって何だろう？



～大学生4人と、こんなテーマで話し合ってみました～

①男らしさ、女らしさってあなたにとって何ですか？



②男らしさ、女らしさを意識した経験を教えてください。

態度

①男らしさには内面的なものや外面的なものがあると思う（内面的なものは幼少期の環境、外面的には胸や腰の形、骨格や筋肉など自然と「らしさ」を意識するようになる。）

滋賀大学
2年生
Aさん（男性）

②小学校でおとなしくしているのは「女らしい」、活発に騒ぐのは「男らしい」という認識があり、とても騒ぐようにしていた。

言葉遣い

①男らしさ＝身長が高い、経済力がある人、力が強くてたくましい人がよいとされる。日焼けしている。
女らしさ＝おしとやかで言葉遣いが丁寧、にこにこして文句を言わない。日焼けしていない。

2年生
Bさん（女性）

②男性は足を広げてもいいのに女性は足を閉じなさいといわれる。「腹減ったー」「うまい！」と女性が言うと悪いイメージを持たれるのが不思議。

服装・性別

①男らしさ＝筋肉、女らしさ＝胸と動きのしなやかさ

3年生
Cさん（男性）

②母親や妹と服を共有して出かけた、彼女とも女装してデートすることがあった。（女の子になりたい）

色

①無回答

2年生
Dさん（女性）

②中学生、高校生の制服、女子はスカートと決まっているのが納得いかない。中学生の時は我慢してスカートをはいていたけど、高校はスラックスにした。高校の体操服が、男子が紺で女子が赤だった。（紺の体操服がよかったのに選ばなかった。）

LGBTってなんだろう？

LGBTとは L(レズビアン) 女性同性愛者
G(ゲイ) 男性同性愛者
B(バイセクシャル) 両性愛者
T(トランスジェンダー) 性自認(心の性)と周囲からみられる性(身体の性)が異なる状態
という**性的マイノリティ**(何らかの意味で「性」のあり方が多数派と異なる人のこと)

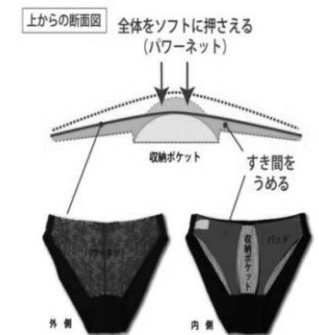
『Genfree』

彦根市の下着会社「美成産業株式会社」がT(トランスジェンダー)の方々向けに下着を開発されているということで、取材に行ってきました。

『Genfree(ジェンフリー)』という下着で、当事者と共同して開発されました。「バストや股間のふくらみが目立って好きな服装ができない」という当事者の悩みを解決し、自分らしく生きるためのサポートをしたいという熱意を感じました。



胸のふくらみを押さえる下着



股間のふくらみを押さえる下着



僕自身今まで生きてきた19年間、「自分らしく」生きることが難しく、窮屈さを感じる事が多々ありました。僕は記事を見てくれているあなたに問いかけます。

「無意識に誰かを傷つけていませんか？」

どのような生き方も自由です。否定しないであげてください。あなたにとって大切な人ならなおさらです。言葉は人を容易に傷つけ、笑顔を奪う凶器となることがあります。すべてを理解する必要はありません。ただ、寄り添ってあげてください。それだけで救われる人はたくさんいます。今回の記事を通じて、普段は意識していない「男らしさ、女らしさ」に対する疑問を少しでも意識してもらえたら...

『見えないものにこそ、気づいていこう』

私は生まれつき耳が聞こえない。40年近く、聞こえる人たちが多数派の社会で生きてきている。子どもから大人になり、社会人になり、結婚し、母になり…いろいろな人と出会い、関わってきた。その中で感じたことがある。

“見えないものにこそ、気づいていこう”

例えばよくお店で店員さんに話しかけられる。最初は聞こえないから話しかけられたことに気づかない。視界に店員さんの笑顔が入って初めて、声を掛けられていることに気づき、「あ、私、耳が聞こえないんです」と身振りで伝える。途端に店員さんの表情が曇り、どうしたものかという表情のあと、苦笑いを浮かべて立ち去ることが多い。聞こえない人とどうコミュニケーションを取ったらよいのかわからないのだと思う。こういうことは慣れっこである。

ママ友と輪になった時、皆口々に喋りだし、笑顔で話し合う。私は内容がつかめないまま、その場の雰囲気壊したくなくて愛想笑いを繰り返す。1対1の場面では口をゆっくり動かしてくれたり、紙にかいてくれたりしてくれるので楽しく話し合えるのだが、集団になると難しくなる。決して私をないがしろにしているわけではなく、聞こえないからできないことがあることを知らないのだ。

また、他愛もない内容だからわざわざ伝えるまでもない、と思うだろう。しかし、この場合に限らず私も含め、多くの聞こえない人は『みんなと同じ時に、同じ場所で、同じ内容を共感したい』と願う。

聴覚障害者という存在があることは多くの人知っていることだろう。けれど、「数少ない存在だろうし、まさか、自分が出会うとは思わない。」そんな意識でいる人が多数だと思う。

音は目に見えないし、耳が聞こえないということは見た目にはわからない。だから、街中ですれ違っても、電車で乗り合わせても、隣に座っていても、その人が聴覚障害者だなんて気づかないし、「自分のまわりに聴覚障害者はいない」という意識になるのだ。

偶然出会うたり知り合ったとしても、普段から意識しないものについての知識はなく、どうしたらいいのか、どうすべきなのか、わからない。



“実際にはすぐ近くに私たちはいるのに”

同じように見た目にはわからない障害を抱えている人は多い。例えば内部障害^(※1)の人、精神的障害の人、発達障害の人。

また、性同一障害^(※2)の人、難病を患っている人…なかなか見た目ではすぐに気づきにくい、少しずつメディアで紹介されたりして、そういう障害・病気の人がいることが周知されつつあると思う。しかし、メディアでその存在を知り、理解できていると思っていても、友人や家族、恋人など、自分の近い人がそうだと告白してきたときは戸惑ったりするのではないだろうか。

そして初めて、遠い世界の話ではなく、身近に感じ始めるのだと思う。その反応に当事者は少なからず傷ついたりする。身近な人に、自分という人間を理解して欲しいと願うからこそ、告白するのだろう。

そして、身近な人だけではなく、街中ですれ違ったり、買い物のレジで同じ列にならんでいるかもしれない。要するに、どこにだって見た目にはわからないが、何かしら抱えている人はいるのだ。遠い存在じゃない。

“見えないもの”は“見えるもの”よりも気づき、理解するのに時間がかかる。当事者であっても、周囲の人であっても。

それは、「無関心からは決して生まれることがない」関心を持ってこそ、“見えないもの”に意識が向く。意識が向けば、知ろうとすることが出来る。そうすれば、いつどこで出会ったとしても、戸惑うことは減るだろう。すべてではなくても、傷つけることは少なくなり、理解につなげていける。

それが広まれば、遠い存在と感じているものが近い存在になると思う。

私たちは同じ社会の中に生きている。一人では生きていけない。性別、年齢、障害や病気の有無、人種、宗教…全てを超えて、必ず周りの人と助け合って生きている。

どうか、“見えないもの”へ関心を持って、
お互いに理解が深めあえたらと心から願ってやまない。



※1 内部障害…身体内部の臓器に障害があることを指す。

※2 性同一障害…身体の性と心の性(自分自身が自分の性はどう感じているか)が一致しない状態のことで医学的な診断名

